

這うことの訓練法

このようにして、這うことの価値が、ドーマン博士によって発見されました。人間は、歩くことの前に這うことをしますが、それは歩く能力を作るための前段階の大切な訓練だったのです。そればかりか、這うためには、両手と両足と頭の、五つの部分が、一緒に連繋して働かなければならず、それには一定の型があることを発見しています。

つまり、幼児は這うことにより、両手、両足、頭を連繋的に働かせることを学び、それは知的発達をもうながす効果があると言うのです。だから、這う過程を通らずにいきなり歩かせる“歩行器”なるものは勿論、這うことを制限している“サークル”などは、幼児にとって大層有害なものである、と指摘しています。

ドーマン博士の行なう有力な治療法として、両手・両足・頭に一人ずつついて、五人が連繋して行なう“這い這い型運動”があります。けれども、その仕方をここでは、文章ではうまく説明できませんし、この運動が正確にできなかつたら、かえって有害ですから、説明することを控えます。

その代わり、私の所に、イギリスの国营放送局が制作した、この訓練を行なっている現場を撮影した映画フィルム(二巻)があります。必要の場合はそれを度々公開しておりますので、それを御覧下さい。また本文、第三章『脳障害児の漢字による訓練法』第一節の『バニーの記録』で、そのシナリオを紹介しました。参考になると思います。

また、藤沢市にある“脳研”では、ドーマン研究所で学んだ先生方が、この訓練法を実践して治療に当たっていますので、そこでよく学習し、身につけられることも良いと思います。それからまた、後述する佐藤友泰氏の創英教育研究所でも、この方法を実践しています。近ければ、そこに通うことをお奨めしますが、遠ければ見学するか、できれば実習させてもらうとよいと思います。